

19世紀のドイツに出版される 簿記の印刷本の目録

土 方 久

想えば、筆者は、実に無謀な構想を練ったようである。「ドイツ簿記の16世紀」から、17世紀、18世紀を経由、19世紀までの単式簿記と複式簿記、さらに、静態論から「20世紀の動態論」まで、この4世紀余、この400年余の間を俯瞰して、今日の複式簿記の会計、したがって、「複式簿記会計への進化」を解明しようとしたのだから……。しかし、後悔しきりのなかで、ともかくも、筆者の姉妹の書として、2005年には、拙著『複式簿記の歴史と論理 - ドイツ簿記の16世紀 -』（森山書店）、2008年には、拙著『複式簿記会計の歴史と論理 - ドイツ簿記の16世紀から複式簿記会計への進化 -』（森山書店）を公刊することで、人知れぬ獣道でしかないかもしれないが、その筋道だけは、やっとの想いで解明しえたようである。

本来、筆者は、これまでに、日本の会計理論、日本の会計制度を支配してきたといわれるドイツ会計学は Schmalenbach, Eugen の大著『動的貸借対照表論』に取組むことによって、会計理論と会計制度の関わりを解明したものである。しかし、第二次大戦後の1947年に大改訂が試みられた第8版の序文に表現される言葉から、収支簿記（カメラル簿記）と単式簿記を意識しながら、これが「複式簿記」を機軸にして構築されていることに気付かされるにつれて、いつも筆者の脳裏から離れなかった問題は、会計制度、会計理論と「複式簿記」の関わり……。特に税法に支配的な見解、すなわち、貸借対照表を使用する『商人的損益計算』（kaufmännische Erfolgsrechnung）が、この貸借対照表

によってこそ、原則として『非商人の損益計算』(Erfolgsrechnung der Nichtkaufleute)とは相違するという見解に挑戦する必要があった。このような見解は、商人的損益計算が期首財産と期末財産の比較であって、収入・支出計算を使用する損益計算とは根本的に相違するということであった。ここに、『商人の損益計算』(Erfolgsrechnung des Kaufmanns)は収益・費用計算であって、この収益・費用計算が単純な収入・支出計算と相違するのは、ただ未決項目が考慮されることによってであることを明示する必要があった¹⁾という重要な言葉に覚醒されてのことである。

そこで、想像するに、「挑戦する必要があった」のは、本来、ドイツ税法に規定される「収入・支出計算を使用する損益計算」に対して、1980年のプロシア税制改革によって、ドイツ商法、ドイツ株式法に規定される「貸借対照表を使用する」「期首財産と期末財産の比較」が容認されたことに起因する。収支簿記(カメラル簿記)を使用する損益計算に加えて、単式簿記を使用する損益計算が容認されたのである。そのためにこそ、「資産・負債」からする損益計算が「収入・支出」からする損益計算に相違しないことが保証されねばならなかったのである。全体損益計算の構造を想像して論証されるのだが、複式簿記を想定してのことである²⁾。

1) Schmalenbach, Eugen; *Dynamische Bilanz*, 8. Aufl., Bremen-Horn/Hamburg/Hannover-Dören 1947, S.3. 二重括弧は筆者。

2) 参照、山下勝治稿; 「貸借対照表の問題性(其の二)」、『會計』, 73巻1号, 1958年1月, 20/21頁。

しかし、「収入・支出」からする損益計算が「現金勘定」であるとしたら、全体利益は、企業の解散時には、債務から完済、資本金も払戻されてからの「現金余剰」である。これに対して、全体損失となると、「現金不足」ということになるが、このような「収入・支出」からする損益計算では、企業の解散時に、債務から完済しえて、資本金が払戻されるにしても、全額が払戻されるとはかぎらない。全額が払戻されないこともある。まして完済しえないとしたら、債務超過。企業が無限責任の場合に、資本主が追加出資して自弁するしかない。企業が有限責任の場合には、資本補充によって填補されるか、債権者から債務免除されないかぎりでは、清算結了にはしえない。いずれにしても、全体収入=全体支出でしかなく、「現金不足」は計算しえない。複式簿記を想定することで、「資本金勘定」を介在させてしか、「全体損失」は計算しえないのである。Schmalenbach自身、不可解にも、「全体損失」という表現を使用してはいないが、この点に気付いてのことかどうかは疑問である。

しかし、これまた、想像するに、Schmalenbachにとって、このような貸借対照表を使用するのは「商人的損益計算」、このような収入・支出計算を使用するのは、「非商人の損益計算」である。「商人的損益計算」こそは「複式簿記」を使用する損益計算、したがって、「収益・費用」からする損益計算なのである。そうであるとしたら、まずは、収入・支出からする損益計算に相違しないことが保証されねばならない。「収益・費用計算が単純な収入・支出計算と相違するのは、ただ未決項目が考慮されることによってである」ので、「未決項目」が貸借対照表に収録される。それだけではない。資産・負債からする損益計算に相違しないことも保証されねばならない。そのためには、未決項目はもちろん、「現金」ばかりか、「資本金」までもが貸借対照表に収録される。期間損益計算の構造を想像して論証されるのだが、これまた、複式簿記を想定してのことである³⁾。

したがって、「簿記」自体を取り巻く環境、今日的には会計環境の変化に対応して、「簿記」自体も変容せざるをえなかったにちがいない。「商人的損益計算」、「非商人の損益計算」、「商人の損益計算」、いずれも相違しないことが論証されるのだが、それでは、複式簿記を機軸にして、反対記録されることで検証されるのは何かということである。反対記録されるのは、全体損益計算の構造を想像するかぎりでは、資産・負債からする損益計算の「全体損益」が収

そこで、敷衍するに、「収入・支出」からする損益計算は、資本金勘定は除いての、現金勘定の「相手勘定」なのである。複式簿記を想定して、現金勘定の借方に記録すると、相手勘定の貸方に、相手勘定の借方に記録すると、現金勘定の貸方に記録する。現金勘定を経由しないならば、この相手勘定の借方と貸方に記録する。資本金勘定は除いての、現金勘定の「相手勘定」が、「収入・支出」からする損益計算なのである。したがって、企業の解散時に、このような「収入・支出」からする損益計算では、収益・費用として解消することで、費用に対する「収益余剰」として全体利益、費用に対する「収益不足」として全体損失も計算するのに対して、現金勘定に現金残高を計算するならば、資本金勘定に振替えられることで、「資産・負債」からする損益計算でも、「資本余剰」として全体利益、「資本不足」として全体損失を計算して検証することになる。そうすることによって、全体損益計算を想像するなら、「収入・支出」からする損益計算が「資産・負債」からする損益計算に相違しないことが保証されることになる。

参照、拙著；『複式簿記会計の歴史と論理』、森山書店 2008年、516/533頁。

入・支出からする損益計算の「全体損益」で検証するためであるのに対して、期間損益計算の構造も想像するかぎりでは、この全体損益で収益・費用からする損益計算の「期間損益の合計」を検証するためである。期間損益の合計が全体損益に一致するようにするのが「貸借対照表」なのである³⁾。

事実、「挑戦する必要があった」、この使命を共有したためか、プロシア税制

3) 参照，山下勝治稿；前掲誌，20/22頁。

しかし、「収入・支出」からする損益計算が「現金勘定」であるとしたら、全体利益は、企業の解散時には、債務から完済、資本金も払戻されてからの「現金余剰」したがって、「収益・費用」からする損益計算に転化するとしたら、いずれは「支出」として解消する未決項目として貸借対照表に収録されることになるのかもしれない。これに対して、全体損失となると、「現金不足」ということになるが、このような「収入・支出」からする損益計算では、企業の解散時には、債務から完済しても、資本金は払戻されえないことがある。全額が払戻されないことすらある。貸借対照表に収録されるにしても、「支出」として解消される未決項目になるとはかぎらない。これまた、複式簿記を想定することで、「資本金勘定」を介在させてしか、全体損失には対応しえないのである。Schmalenbach自身、1937年に出版される第7版までは、「資本金」は未決項目、「収入・未支出」としていたのに対して、1947年に出版される第8版からは、未決項目から弾き出して、貸借対照表に収録することになるが、この点に気付いてのことかどうかとも疑問である。そこで、敷衍するに、資本金勘定は除いての、現金勘定の「相手勘定」が、「収入・支出」からする損益計算なのであるから、期間、期間の決算時には、このような「収入・支出」からする損益計算が収益・費用として解消するので、収益・費用としても、支出・収入としても、いまだ解消することのない「未決項目」は排除、これが貸借対照表に収録されることで、費用に対する「収益余剰」として期間利益、費用に対する「収益不足」として期間損失を計算する。「収益・費用」からする損益計算に転化して、「損益勘定」に計算するのである。損益勘定に期間損益を計算するならば、資本金勘定に振替えられる。したがって、企業の解散時に、資本金勘定に収録されるのは「期間損益の合計」。企業の解散時に、現金勘定に現金残高を計算するならば、資本金勘定に振替えられることで、現金残高 = 資本金 + 期間損益の合計。現金残高 - 資本金 = 全体損益を計算して、期間損益の合計を「全体損益」で検証することになる。企業の全生命期間に、利益処分があったとしても、さらに、追加出資または資本引出があったにしても、同様。資本金勘定の借方と貸方は、それだけ減少するか増加するだけである。そうすることによって、期間損益計算を想像するなら、「収入・支出」からする損益計算が「収益・費用」からする損益計算に相違しないことが保証されることになる。ひいては、「資産・負債」からする損益計算に相違しないことも保証されることになる。

Vgl., Schmalenbach, Eugen; *Dynamische Bilanz*, 7. Aufl., Leipzig, 1939, S.117 .

Vgl., Schmalenbach, Eugen; a. a. O(*Dynamische Bilanz*, 8. Aufl.) S.32 .

参照，拙著；前掲書，541頁。

改革によって起こされる混乱のなか、1892年には、簿記の専門誌、*Zeitschrift für Buchhaltung. Fachblatt für das gesamte Rechnungswesen* が創刊されて、収支簿記（カメラル簿記）、単式簿記、複式簿記は、どのように組立てられるのか、「勘定学説」ないし「勘定理論」としても、さらに、複式簿記は、本来、どのように組立てられたのか、「簿記発生史」ないし「簿記発達史」としても、実に興味深い貴重な多くの論稿が公表されたのだが、創刊されて30年余にして、1923年には突如として廃刊。廃刊される直前、1921年の巻頭には、印刷費、郵送料が高騰した旨、第一次世界大戦後の未曾有のインフレーションに逼迫したことが告知されてはいるが、Schmalenbachの名著『動的貸借対照表論』の初版が公刊されたのは1919年。廃刊されたのが、その直後であるだけに、この簿記の専門誌は、「挑戦する必要がある」、この共有した使命もほぼ終了しえたからでは、と想像してしまうのは、「Schmalenbach学者」でしかない筆者だけの単なる思い込み、裏事情の読みすぎ考えすぎであろうか。

そのようなわけで、19世紀のドイツ簿記に取り組んでみたのだが、ともすれば残影を追いかけているにすぎないのでは、これでは核心に到達しえないのでは、したがって、複式簿記が、ほぼ完成される15世紀、16世紀にまで遡源しなければならないのではとの想いに駆られて取り組んだものである。複式簿記は、本来、どのように組立てられたのか、「ドイツ簿記の16世紀」に想いを馳せて、複式簿記の歴史の裏付けを得ながら、その論理を解明しようとしたわけである。

しかし、停年を目前に、筆者に残された時間もないことを気付かされるにつれて、本来ならば、17世紀から19世紀までのドイツ簿記も解明して、会計理論、会計制度と「複式簿記」の関わり、この問題に立ち向かわねばならないのだが、そうすることはできるはずもない。時間が残されていないとなると、筆者が解明しなかった問題だけは整理しておきたいとの想いから、わずか三冊の印刷本でしかないが、17世紀、18世紀、さらに、19世紀に出版される印刷本を選定して⁴⁾、この三冊の印刷本だけを手掛かりに整理して、「ドイツ簿記の16世紀」から、17世紀、18世紀を経由、19世紀までの単式簿記と複式簿記、さらに、静態論から「20世紀の動態論」までの、「ドイツ簿記の16世紀から複式簿記会計への進化」と確信する道筋、人知れぬ獣道でしかないかもしれないが、その

道筋だけでも解明しておこうとしたものである。

そこで、17世紀から19世紀までのドイツ簿記を改めて解明するだけの時間が残されていない筆者としては、せめて、これまでに整理してきた目録だけでも披露しておきたいとの想いから、筆者の姉妹の書には、「ドイツ簿記の16世紀における印刷本の年表と目録」⁵⁾に加えて、「16世紀から18世紀までにドイツに出版される印刷本の目録」⁶⁾を披露したところである。さらに、「19世紀のドイツに出版される印刷本の目録」までも披露しておきたいのである。

もちろん、そのような印刷本は、先学によって整理されてはいる。すでに、1975年に「英国勅許会計士協会」(Institute of Chartered Accountants in England and Wales)によって編纂される『会計資料の歴史目録』(“*Historical Accounting Literature*”, London.)である。この目録のうち、いくらかは復刻されてもいる。雄松堂書店によって、1978年から1980年(1st SERIES)と1989年から1990年(2st SERIES)に復刻された『簿記・会計名著復刻シリーズ』(“*HISTORIC ACCOUNTING LITERATURE*”)が、それである。その目録と復刻シリーズを参考にしながら、筆者が内外の大学図書館から独自に収集してきた簿記の印刷本と合わせて、ドイツに出版される簿記の印刷本の目録を作成している。さらに、久留米大学御井図書館に所蔵される『ハーウッド文庫』(“*The Herwood Library of Accounting including Books*

4) 17世紀に出版される印刷本として選定したのは、Savary, Jacques; *Der vollkommene Kauff- und Handels=Mann*・・・, Erstes Buch, Erster Theil, Genf 1676.

なお、原本(フランス語版)の初版は1675年。

参照、拙著；前掲書，389頁以降。

18世紀に出版される印刷本として選定したのは、de la Porte, Matthieu; *Einleitung zur Doppelten Buchhaltung, Erster Theil, Wissenschaft der Kaufleute und Buchhalter*・・・, Wien, Prag und Triest 1762.

なお、原本(フランス語版)の初版は1704年。

参照、拙著；前掲書，417頁以降。

19世紀に出版される印刷本として選定したのは、Schiebe, August; *Die Lehre der Buchhaltung, theoretisch und practisch dargestellt*, Grimma 1836.

参照、拙著；前掲書，460頁以降。

5) 参照、拙著；『複式簿記の歴史と論理』，森山書店 2005年，417頁以降。

6) 参照、拙著；『複式簿記会計の歴史と論理』，森山書店 2008年，565頁以降。

printed between 1494 and 1900 ") を実際に調査しながら、新たに収集してきた簿記の印刷本もこの目録に追加している。

ところが、16世紀から18世紀までにドイツに出版される印刷本の目録に加えて、19世紀のドイツに出版される印刷本の目録までを作成して気付くのは、先学によって整理される標題と原本の標題が微妙に相違することである。印刷本の標題が微妙に相違するのは、想像するに、原本の標題自体に、類似する活字が混用されているためか、略字、略語が多用されているためか、古文体から現代文に書換えられているためか、いずれかに起因するにちがいない。先学の苦勞が偲ばれる想いではある。それにしても、原本と照合して、16世紀から18世紀までにドイツに出版される印刷本の目録に加えて、19世紀のドイツに出版される印刷本の目録までもヨリ完全に作成しておかねばならないはずである。したがって、先学の業績を参考にしながら、このような印刷本の目録を作成しておくことは、むしろ、後学に残された責務でもあるにちがいない。表1を参照。

19世紀前半(1800年~1849年)のドイツに出版される簿記の印刷本

*HINZE, Heimbart Johann; *Grundsätze des landwirtschaftlichen Rechnungswesens, nebst Formularen zu dessen zweckmäßigen Einrichtung*, Helmstädt 1800.

*JONES, Eduard Thomas; *EDUARD T. JONES neuerfundene einfache und doppelte englische Buchhalterey, nach welcher es unmöglich ist, daß ein Fehler, er sey auf noch so klein, unbemerkt bleiben kann. Vorzüglich eingerichtet, um diejenigen üblen Folgen, die mit den bisher bekannten Methoden unzertrennlich verbunden waren, ganz sicher zu vermeiden, und für jede Art von Geschäft brauchbar gemacht. Von einem sprachkundigen Gelehrten aus dem Englischen übersetzt, und für Teutschlands Kaufleute und Geschäftsmänner bearbeitet, mit Anmerkungen und Zusätzen versehen von Andreas Wagner*, Leipzig 1801.

*著者は不明; *Vollständiges systematisches Lehrbuch der gesammten Handlungswissenschaft. Zum Gebrauche für Kaufleute und alle diejenigen, die sich der Handlung widmen, vorzüglich aber zum Leitfaden bei Vorlesungen über die Handlung in allen ihren Theilen bestimmt*, Hamburg und Mainz 1801.

- *WAGNER, Anndreas; *Neues Vollständiges und allgemeines LEHRBUCH DES BUCHHALTENS für jede Art der Handlung passend. Zum Gebrauch für angehende Lehrer und Selbstlernende, wie auch für Handlungs-Schulen. Entworfen und nach eignen Grundsätzen bearbeitet*, Magdeburg 1802.
- *BAHLSSEN, Johann Heinrich; *DER PRACTISCHE BUCHHALTER ODER GRÜNDLICHE ANWEISUNG ZUM DOPPELTEN ITALIENISCHEN BUCHHALTEN DEM KAUFMANNE, BUCHHALTER UND LEHRER GEWIDMET. MIT ALLEN NOTHWENDIGEN KAUFMÄNNISCHEN ERLÄUTERUNGEN BEGLEITET*, Hanonover 1803.
- *MEISNER, C. G.; *Neuerfundene deutsche Buchhalterey. Ein Gegenstück zu Jones neuerfundenen englischen Buchhaltung, oder Versuch die bisherige einfache und doppelte Methode des kaufmännischen Buchhaltens auf die zweckmäßigste Art miteinander zu verbinden, und auf das einfachte, leichteste und sicherste System zurück zu führen*, Breslau 1803.
- *EULER, Martin; *Vorübungen zu Comptoir-Geschäften, oder Anleitung zum kaufmännischen Briefwechsel in deutscher, französischer, englischer, und italienischer Sprache, in zwei und zwanzig Geschäftsdarstellungen und vollständiger Buchhaltung darüber, mit einer englischen Phraseologie und drei Anhängen, enthaltend: Circulare aller Art, Connaissance, Charteparties, Proteste und Bodmereibriefe; ein kleines terminologisches Wörterbuch; Abhandlung über kaufmännische Erziehung und die dabei zu behandelnden Lehrgegenstände, mit Hinweisung auf die vorzüglichsten Schriften; über Handlungs-Correspondenz; über Assecuranzwissenschaft; Anleitung zur doppelten Buchhaltung, sowohl nach der alten Methode, als nach des neuen von Jones, wie vollständigem Abschluss, Vierte durchaus verbesserte und vermehrte Auflage von Johann Georg Cleminius, Frankfurt am Main 1804, 1806.⁷⁾*
- *PIERÉ, Heinrich; *Theoretisch-Practische Anweisung zur gründlichen Erlernung der doppelten ITALIENISCHEN kaufmännischen Buchhaltung. Sowohl zum Vortrag für Lehrer als auch für jene, die sich selbst unterrichten wollen. Practisch dargestellt*, Dritte Theil, Wien 1804, 1805.
- *BOCK, J. H. D.; *Versuch einer gründlichen Anweisung zum fasslichen und leichten Erlernen des Italianischen Buchhaltens oder der kaufmännischen doppelten Rechnungsführung*, Berlin 1805-1806.⁸⁾

7) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *Historical Accounting Literature*, London 1975, p.26.

- *BUSE, Gerhard Heinrich; *Allgemeiner kaufmännischer Buchhalter oder vollständige Anleitung zu allen bekannten Arten des Buchhaltens für angehende Kaufleute, Comtoristen, Lehrer in Handelsschulen und Jünglinge die sich dem Handel widmen, nach den neuesten und besten Mustern in diesem Fache bearbeitet und herausgegeben*, Praktischer Theil, Erfurt 1804. / Des theoretischen Theiles erste Hälfte, Erfurt 1804. / Des theoretische Theiles zweite Hälfte, Erfurt 1805.
- *FLASCHIN, Salomon; *PRACTISCHES LEHRBUCH DER BUCHHALTEREY NACH EINER ERPROBTEN NEUEN METHODE welche bei der einfachen Buchhaltung eine tägliche Uebersicht sowohl des Ganzen als der einzelnen Handlungsgegenstände gewährt, und die Vortheile DER DOPPELTEN BUCHHALTUNG in jeder Rücksicht übertrifft*, Frankfurt am Main 1805.
- *HOFF, Christoph Friedrich; *DIE DOPPELTE BUCHHALTUNG NACH DEM DEUTSCHEN UND ITALIENISCHEN SYSTEM IN VERGLEICHUNG MIT DER EINFACHEN BUCHHALTUNG Für ANGEHENDE KAUFLEUTE, FABRIKANTEN UND GESCHÄFTSMÄNNER, BESONDERS FÜR DIEJENIGEN, DIE SICH DER BUCHHALTEREI IN ALLEN ARTEN WIDMEN WOLLEN; AUCH FÜR HANDLUNGSSCHULEN BRAUCHBAR*, Magdeburg 1805.
- *DECKER, Johann Heinrich, junior; *Gründliche Anweisung zur richtigen Formirung der Schluß=Balanze und Abschließung der Hauptbücher*, Hamburg 1806.
- *LEUCHS, Johann Michael; *Anleitung zur Berechnung der Facturen, oder Theorie und Praxis der Waaren-Preisberechnung. Mit Facturen und einem Münzverzeichnisse (System des Handels. Dritter Band. Zweite Abtheilung)*, Nürnberg 1806.⁸⁾
- *LEUCHS, Johann Michael; *System des Handels, Dritter Band. Erste Abtheilung: Theorie und Praxis des Italienischen Buchhaltens und des Nürnberger Buchhaltens. Zweyte Abtheilung: Anleitung zur Berechnung der Facturn. Mit Schmaten, Facturen und einem Münzverzeichnisse*, Nürnberg 1806.
- *LEUCHS, Johann Michael; *Theorie und Praxis des Italienischen Buchhaltens und des Nürnberger Buchhaltens. Mit Schematen*, Nürnberg 1806.
- *GROSSER, Joh. Mich. Edlen von; *Oekonomische COMPTABILITAET oder*

8) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.17.

9) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.40.

Anwendung der kaufmännischen doppelten Buchhaltung auf landwirtschaftliche Rechnungen zum Gebrauch für Güterbesitzer, Pächter und Beamter, Zweiter Band, Wien 1807.

- *JONES, Edward Thomas; A. Wagner's neue und leicht zu erlernende englische Buchhalterei, nach welcher es unmöglich ist, dass ein Fehler in den Büchern länger als einen halben Tag unentdeckt bleiben, und durch die man jedes noch so grosse Geschäft in einigen Stunden übersehen kann. Nach dem Englischen des E. T. Jones völlig umgearbeitet, und für Deutschlands grosse und kleine Kaufleute brauchbar gemacht, Dritte Ausgabe, Leipzig 1807.¹⁰⁾
- *THAER, Albrecht Daniel.; *Methode der landwirthschaftlichen Buchhaltung durch das zu Mögeln eingeführte Schema erläutert*, Berlin 1807.
- ***著者は不明**; Verbesserte deutsche Buchhaltung. In welcher Jones englische und Meissners neuerfundene deutsche Buchhaltung zu Grunde gelegt sind. Von einer Gesellschaft Kaufleute, Frankfurt am Main 1807.¹¹⁾
- *MAISNER, S. G.; *Anleitung zur Kenntnis des kaufmännischen Geschäftsganges, für junge, sich etablirende Männer, welche stets eine helle, ordnungsvolle, und zuverlässige Übersicht ihrer Geschäfte haben und sich mit den vortheilhaftesten Wegen des Waaren= Einkaufs und Absatzes, bekannt machen wollen*, Leipzig 1808.
- *DECKER, Johann Heinrich, junior; Handlungs-Prinzipal Buch oder Anweisung zu einer Buchhalterey welche die Hauptbücher entbehrlich macht, vermittelt welcher mau zu jeder Zeit wissen kann, was, und an welchem Gegenstande verloren oder gewonnen und wie der Vermögens-Zustand überhaupt beschaffen ist. Den Vorschriften des französischen Handels-Gesetzbuches gemäss entworfen von•••, Hamburg 1809.¹²⁾
- *WAGNER, Andreas; *M. Andreas Wagner's, Privatlehrers der Arithmetik, Buchhalterei für das gemeine Leben. Oder Vollständige Anleitung, die Geschäfte einer großen Oekonomie, verbunden mit allen kaufmännischen Vorfällen, dergestalt nach den Grundsätzen der doppelten Buchhaltung einzutragen, daß man zu jeder Zeit den wahren Stand seines Vermögens wissen kann*, Leipzig 1810.
- *MEISNER, S. G.; *Die doppelte Buchhaltung auf der Stufe ihrer Vollkommenheit, nach genauer Prüfung aller bis darüber erschienenen Schriften, und einer*

10) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.32.

11) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.27.

12) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.28.

eigenen dreißigjährigen praktischen Bearbeitung, sowohl den Vorschriften des allgemeinen Preussischen Landrechts und Gerichtsordnung, als auch den Bestimmungen des neuen Französischen Handels-Gesetzbuches gemäß dargestellt, Berlin 1811.

- *GUTSCHE, Friedrich Wilhelm; *DIE LANDWIRTSCHAFTLICHE BUCHHALTUNG, eine ökonomische Schrift für alle Proprietairs und Beamten, welche nach den neuesten ökonomischen Prinzipien den Ertrag des Land-Eigenthums berechnen, sicher stellen, und die Verwaltung aller Güter-Ertrags-Zweige nach den reinsten Regeln des rationellen Ackerbaues einrichten wollen. Mit Bemerkungen über Wechselwirthschaft und andere ökonomische Wichtigkeiten, Prag 1814.*
- *MAISNER, S. G.; *Die Kunst in drei Stunden ein Buchhalter zu werden. Ein kurzer und deutlicher Unterricht für unbemittelte Handlungslehrlinge, Handlungsdienere und angehende Kaufleute, die doppelte italienische, englische und neue deutsche Buchhalterei, in einem äußerst kurzen Zeitraume ohne Hülfe eines Lehrmeisters gründlich zu erlernen, Neueste Auflage, Berlin 1814.*
- *TOEPLITZ, J.; *Die kaufmännische Buchführung (einfache und doppelte) für den Unterricht und den praktischen Gebrauch unter Zugrundbelegung der Bestimmungen des Allgemeinen deutschen Handelsgesetzbuches, Zweite vermehrte und verbesserte Auflage, Posen 1814.¹³⁾*
- *EBELING, J. C. L.; *Ueber die Beweiskraft der Handelsbücher, Hamburg 1815.*
- *SANDER, Carl Wilhelm; *Versuch einer Anleitung zur praktischen Kenntniss des Kassen- und Rechnungswesens und der darauf Bezug habenden Gegenstände in den Königl. Preuss. Staaten. Nebst einem Anhang über das Registraturwesen, Zweite vermehrte Auflage, Breslau 1815.¹⁴⁾*
- ***著者は不明**; *Der Buchhalter, oder Anleitung zum Selbstunterricht in der einfachen, doppelten und englischen Buchhaltung, nebst Anweisung alle Arten kaufmännisch schriftlicher Aufsätze gründlich zu erlernen, und den jetzigen Geschäftsgang sich eigen zu machen, Prag 1815.*
- ***著者は不明**; *Der Kaufmann wie es soll. oder Anleitung ein vollkommener Geschäftsmann zu werden, Zweite Theile, Prag 1815.*

13) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.41.

14) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.55.

- *DEWIDELS, A.; *Die doppelte Buchhaltung in Briefen an meinen Freund. Eine Anweisung zur Führung der Handlungsbücher in der neuesten und kürzesten Manier, sammt einer deutlichen Auseinandersetzung der Wechselbriefe*, Prag 1816.
- *GSELL, Jacob; Kurze und deutliche Anweisung zur Selbsterlernung der doppelten Buchhaltung in einem Geschäftsgang von drei Monaten dargestellt und mit den nöthigen Erklärungen begleitet, Nürnberg 1816.¹⁵⁾
- *REINGANUM, A.; Entwurf zu neuen Verbesserungen in der ital. doppelten Buchhaltung oder Darthung der bey derselben, selbst nach den neuesten Lehrbüchern, noch bestehenden verschiedenen Mängel, nebst Verbesserungsvorschlägen, sowohl durch Anwendung einiger kameralischen Verfahrensmethoden als durch andere neu aufgestellte theoretische Grundsätze, sammt einigen kleinen Schemis, Rödelheim 1816.¹⁵⁾
- *GÖBL, Franz Ant.; *Die practische Buchführung und Rechnungspflege in Verwaltung einer Waisen- und Depositenkasse, nach Grundsätzen der Einfachheit, Deutlichkeit und Kürze behandelt*, Grätz 1817.
- *LIWEH, E. F.; *Neues System der doppelten Buchhaltung zur Selbsterlernung bearbeitet*, Leipzig 1817.
- *LINDNER, Johann Wilhelm Sigismund; Ueber die Beweiskraft der Handelsbücher insonderheit über den Beweis der Hauptbücher eines Lotterie-Hauptcolleuteurs; ein juristischer Versuch, Helmstadt 1818.¹⁶⁾
- *PUTEANI, Johann, Freiherrn von; Grundsätze des allgemeinen Rechnungswesens, mit Anwendung auf alle Vermögens- und Gewerbsverhältnisse des bürgerlichen Lebens, insbesondere auf Landwirthschaft, Handlung und Staatswirthschaft, Wien 1818.¹⁷⁾
- *CRÜGER, Carl; *Carl Crügers untrüglicher Buchhalter, dargestellt in den Hilfs-, Neben- und Hauptbüchern einer Hamburgischen Handlung und nach den besten Systemen und neusten Verbesserungen entworfen. Zum Selbstunterricht für Kaufleute Kammeralisten, Besonders abgedruckt aus der zweiten Auflage von des Verfassers grossern Werk „der Kaufmanns“, Hamburg 1820.*
- *DERLE, Carl Friedrich; Versuch einer Anleitung zum Rechnungsführen. Ein

15) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.43.

16) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.30.

17) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.47.

Hilfsbuch zunächst für diejenigen, welche temporäre Rechnungs-Oblichkeiten übernehmen, oder neben ihren Geschäften sich damit zubefassen haben. Mit erläuternden Formularen, Dresden 1820.¹⁸⁾

- * LEUCHS, Johann Michael; *Theorie und Praxis des doppelten, des einfachen und des Nürnberger Buchhaltens. Mit elf Handlungsbüchern, als Mustern. Zweyte vermehrte Auflage*, Nürnberg 1820.
- * NEUGEBAUER, Joseph; Darstellung des Verfahrens im Cassen- und Rechnungswesen bei der französischen Verwaltung, Breslau 1820.¹⁴⁾
- * DEWIDELS, A.; *Theoretisch= praktische Anleitung zur einfachen Buchhaltung oder vollständige und gründliche Anweisung die Handlungsbücher nach der deutschen oder sogenannten einfachen Manier zu führen, für Lehrer und Lernende*, Prag 1821.
- * QUARCH, J. W.; Die Kunst des Buchhaltens. Nebst Darstellung dreier neueren verschiedenen Systeme des Buchhaltens, nämlich: des Jones'schen, des Meisnerschen, und des Crugerschen. Zum Gebrauche für Handlungs-Schulen, und für den Privatunterricht ; auch als Handbuch für Geübtere, Zweyte, bedeutend vermehrte Auflage, Leipzig 1822.¹⁰⁾
- * SZARKA, Joseph von; Lehrbuch der Comptabilitäts-Wissenschaft, systematisch entworfen von Joseph von Szarka. Zweite Volumen, Wien 1822-1823.¹⁷⁾
- * CASPAR, Johann Dominic; Der Rechnungsführer nach Anleitung der Gesetz, oder Sammlung der bestehenden allerhöchsten Gesetz und Berordnungen, welche die Berrechnung des Steuer- Kirchen-, Waisen-, Depositen- und Armeninstituts - Bermogens, dann der obrigzeitlichen Gelder und Naturalien, wie auch derlei Bezugsrechte und ihre Eintreibung zum Gegenstande haben. Für Böhmen Mähren und Schlesien, Dritte Volumen, Brunn 1823, 1824, 1825.¹⁹⁾
- * HEINEMANN, M.; *Die solide Handlung en detail oder theoretisch= praktische Anweisung, wie die Bücher einer Waaren= Handlung en detail nach doppelt Italienischer Buchhaltungsart geführt werden können*, Zweite umgearbeitete und sehr verbesserte Auflage, Leipzig 1823.
- * JUNG, Johann Heinrich; *Dr Joh. Heinr. Jung's theoretiske og practiske Handels=System; til Brug ved Underviisning i Handelsvidenstabens samtlige Dele, samt for alle Klaster af Risbmcend. Overfat, omarbeidet, forfynet med Anmeckrninger og udgivet ved H. F. Heliesen*, Koebenhavn 1824.

18) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.23.

- *HEINEMANN, M.; Der gebahnte Weg um Buchhalten; Der gebahnte Weg um Buchhalten; oder natürliche Reihenfolge für den Unterricht im kaufmännischen doppelt italienischen Buchhalten. Für Lehrer und den Selbstunterricht und zum Gebrauch für Manufaktur-, Material-, Kurze- Waaren- und Weinhandlung, Zürich 1825.¹⁴⁾
- *ELZE, Johann Ludwig; *Doppelte oder Italienische Buchhalterei zum Selbstunterricht*, Leipzig 1826.
- *PETTER, Franz; *Theoretisch=practisches Lehrbuch der kaufmännischen Buchhaltungs=Wissenschaft. Gründliche und fäßliche, auf practischen Erfahrungen beruhende Anleitung, wie die Bücher der Kaufleute, sowohl im Groß= als Kleinhandel und in Fabriken, auf einfache Art und in doppelten Posten zweckmäßig geführt werden können, Mit Schematen und Tabellen*, Wien 1826.
- *CASATI, Johann von; *Practische Anleitung zur BUCHHALTUNG für junge Leute, die sich der Handlung widmen, und sich das Verhältniss zwischen dem In- und Auslande ohne Beyhülfe eines Lehrers eigen machen wollen, mit einem Vorberichte und practischen Darstellung aller dazu nöthigen Arbitrage-Rechnungen*, Wien 1827.
- *LEVI, Nehemias; Allgemeiner Schlüssel zur einfachen und doppelten Buchhaltung. Aus dem Englischen übersetzt, Zweite durchaus verbesserte Auflage, Stuttgart 1827.²⁰⁾
- ***著者は不明**; Grund-Linien und zugleich practische Darstellung über Buchführung, Rechnungs- und Kassawesen der adelichen Güterverwaltungen, ein Handbuch für Gutsherrschaften und gutsherrliche Rechnungs-Beamten. Entworfen und herausgegeben von einem königl. bayer. Revisionsbeamten, Würzburg 1827.¹⁴⁾
- *GRIMM, Karl Friedrich; Anleitung zur doppelten italienischen Buchhaltung, Kassel 1828.²¹⁾
- *MEISNER, S. G.; Die Kunst, in drei Stunden ein Buchhalter zu werden, Ein kurzer und deutlicher Unterricht für unbemittelte Handlungslehrlinge, Handlungsdiener und angehende Kaufleute die doppelte italienische, englische und neue deutsche Doppel-Buchhaltung, in einem ausserst kurzen Zeitraume, ohne Hülfe eines Lehrmeisters gründlich zu erlernen, Vierte

19) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.21.

20) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.44.

21) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.31.

verbesserte und mit einer Wiederholungsstunde versehen Auflage, Berlin 1828.⁸⁾

- *RIEGER, Augustin; Versuch einer Anleitung zur richtigen Aufnahme und Berrechnung des Fundus Instructus oder Wirthschafts-Inventars. Nach einer neuen, sehr einfachen Methode, mit einem alphabetisch geordneten Requisiten-Berzeichnisse und allen nothigen Beispielen. Ein Handbuch für Gutsbesiker, Inspectoren, Buchhalter, Residenten, Wirthschaftsbeamte und ihre Schreiber, Leitmeritz 1829.²²⁾

V

- *KOBATZ, Johann Carl; *Anweisung zur Führung einer deutschen doppelten Buchhaltung für die Landwirtschaft, durch welche nicht nur das auf einer Herrschaft oder auf einem Gute überhaupt, und in den verschiedenen landwirtschaftlichen Zweigen insbesondere, ruhende Stamm=Capital stets richtig dargestellt und verrechnet, sondern auch erprobt werden kann, welch reinen Ertrag eine Herrschaft oder ein Gut sowohl im Ganzen, als auch jeder für sich bestehende Landwirtschaftszweig einzeln abgeworfen, und wie hoch sich der ganze Besitzstand überhaupt, und in allen seinen Abtheilungen insbesondere, von einem Jahre zum andern, verzinset hat. Nach zweyerley Methoden. Für Herrschaftsbesitzer, Wirthschaftsräthe und Inspectoren, Landwirthschafts= und Fort=Beamten, Rechnungsführer und Lanswirthe des In= und Auslandes, Zweiter Band, Wien 1830.*

- *LOISON, I. D.; *Der Mann im Glücke mit sechshundert Gulden, in sieben leichten Abschlüssen der doppelten Buchhaltung, nebst Anleitung, ein Inventarium aufzunehmen; für alle, die sich einen richtigen Begriff von der doppelten Buchhaltung machen, oder sie durch eigene Übung erlernen wollen, oder die in den Fall kommen, Handlungsbücher untersuchen zu müssen, Wien 1830.*

- *SCHLOESSING, Moritz; Die praktisch-kaufmännische deutsche Doppel-Buchhaltung mit gesetzlichen und anderen Anmerkungen und drei Tafeln A. B. C., enthaltend: Conto-Courant nebst Supporto's-Berechnungen, angehende und geschäftstreibende Kaufleute. Nebst einer Nachweisung: wie ein angehender vereideter Waaren-, Wechsel-, Fonds- und Geld-Makler das gesetzlich bestimmte Makler-Jornal und Courtage-Buch ordnungsmässig einrichten und controlliren kann, Zweite Volumen, Berlin 1830, 1832.⁸⁾

- *SCHUERER, Eduard; *Magasin für Jünglinge die sich dem Handel widmen wollen oder eine Zusammenstellung der nöthigen Kenntnisse eines Kaumannes nebst deutlichen Erklärungen und Beispielsammlungen, Dresden 1830.*¹⁸⁾

22) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.37.

- * SULSER, J.; *Gründlicher Unterricht zur Erlernung der doppelten Buchhaltung dargestellt in den Geschäften von sechs Monaten*, Zweite Bände, Zürich 1830, 1831.
- * 著者は不明; *Ueber den Beweis durch Handelsbücher im Civil=Proceß*, Leipzig 1830.
- * GRAAF, Bartolome Christian; *Handbuch des Stats-, Kassen- und Rechnungswesens des Königlich Preussischen Staats*, Berlin 1831.⁸⁾
- * DEWIDELS, A.; *Das Ganze der kaufmännischen Buchhaltungswissenschaft. Oder villstänge und lechtsatzliche Anweisung, die Handlungsbücher in doppelten und einfachen Parthien zu führen und abzuschließen, mit einer Einleitung, betreffend: Einen kurzen Abriß der Geschichte des Handels, Cours- und Cours-Zettel, eine ausführliche Beschreibung der Wechselbriefe, und eine möglichst klare Darstellung der Oesterreichischen Staatapapiere. Für Lehrer und Lernende*, Dritte Theile, Prag 1832, 1833, 1834.
- * JÖCHER, Albert Franz; *Die Handelsschule. Real=Encyklopädie der Handelswissenschaften. Enthaltend Belehrungen über den Handel und seine verschiedenen Zweige; die kaufmännische Rechenkunst; Coursberechnung; die Correspondenz; die doppelte und einfache Buchhaltung; alle Arten kaufmännischer Aufsätze; den Waaren=, Wechsel= und Staatspapierhandel; Seehandel; das Land= und Seefrachtwesen; über Handlungsgesellschaften, Affekuranzen etc. Für Jünglinge, welche sich dem Handel und Fabrikwesen widmen wollen. Nach neuesten Quellen und besten Hilfsmitteln bearbeitet*, Dritte Bände, Quedlinburg und Leipzig 1833, 1834, 1835.
- * LESSER, August; *Der Handel im Kleinen oder praktische Anleitung sich mit allen Vortheilen desselben vertraut zu machen, ihn mit dem größtmöglichen Nutzen zu betreiben, die darin vorkommenden Waaren, ihre Behandlung, Beziehungsorte, Preise, Aechtheit oder Verfälschung etc. genau kennen zu lernen, ihrem Verderben vorzubeugen, die Handlungsbücher nach einer einfachen, zweckmäßigen und leicht verständlichen Methode accurat und richtig zu führen. Nebst Unterweisung in den gewöhnlichsten Briesen und Aussätzen, Erklärung der im Handel vorkommenden Kunstausdrücke und Fremdwörter, und Belehrungen über Tratten und Wechsel; auch einem verständlichen. Rechenknechte sowohl nach Thalern als nach Gulden für die am häufigsten vorkommenden Fälle in bequem nachzuschlagenden Tabellen. Ein unentbehrliches Hand= und Hilfsbuch für Krämer, Höfen, Ladenjungfern und Alle, welche, ohne den Handel erlernt zu haben, ihn mit Vortheil zu*

betreiben wünschen, Ilemenau 1833.

- *LUZAC, Ludwig Wilhelm; *Lehrbuch der Handlungs=Wissenschaften. Dritter Band, enthaltend die praktische Buchführung nach den Grundsätzen der doppelten Buchführung in ihren Haupt= und Nebensbüchern*, Prag 1833.
- *LUZAC, Ludwig Wilhelm; *Lehrbuch der Handlungs=Wissenschaften, enthaltend die Buchführung mit ihren Vor= und Nebenkenntnissen; das merkantilitische Rechnungswesen und die kaufmännische Correspondenz, theoretisch und praktisch dargestellt, und durch Beispiele erläutert zum Gebrauche des Handelsstandes überhaupt; insbesondere aber für Jene, welche sich dem Comptoir=Dienste widmen*, III Bande, Prag 1833.
- ***著者は不明**; *Versuch einer theoretisch=practischen Anleitung zur Buchhaltung für Buchhändler*, Deßau 1833.
- *OFFTERDINGER, Ludwig; *Anleitung zur Landwirtschafts-Buchhaltung nach dem kaufmännischen Rechnungssystem*, Leipzig & Stuttgart 1834.¹⁰⁾
- *STEIN, Thomas; *Die landwirtschaftliche Buchführung oder Anleitung zur richtigsten Methode. die Landwirtschafts=Rechnungen von großen und kleinen Gütern so zu führen, daß daraus nicht nur am Schlusse des Jahres der reine Ertrag des ganzen Gutes, sondern auch von einer jeden einzelnen Branche mit Leichtigkeit und Zuverlässigkeit zu ersehen ist. Auf die einfachste Art gezeigt durch die Schemas zu den Rechnungsbüchern und durch Beispiele faßlich dargestellt*, Leipzig 1835.
- *COURTIN, Carl; *Allgemeiner Schlüssel zur einfachen und doppelten Buchhaltung, oder die Kunst, in auffallend kurzer Zeit die kaufmännische Buchführung in allen ihren Theilen gründlich zu erlernen*, Neunte, vermehrte Auflage, Stuttgart 1836.²⁰⁾
- *FRITSCH, Heinrich Tobias Martin; *Die Buchhaltung für Buchhändler nach den Grundsätzen die doppelten oder italienischen Buchhaltung=Wissenschaft*, Cöslin 1836.
- *HOEPSTEIN, Albert; *Praktisches Handbuch der Buchführungskunde für den deutschen Buchhandel zur klarsten Geschäfts- und Vermögensübersicht*, Leipzig 1836.¹⁰⁾
- *SCHIEBE, August; *Die Lehre der Buchhaltung, theoretisch und practisch dargestellt*, Grimma 1836.
- *BIVANCO, J. Th. K.; *Ueber die schwankende Rechnungs-Richtigkeit der mer-*

cantilischen Buchungs-Abschlusse. Nach dem Mexikanischen des J. Th. K. Bivanco, Wien 1838.²³⁾

- *WILDNER, Ignaz; Der Beweis durch in- und ausländische Handels-(Fabriks-, Apotheker-) und Handwerksbücher vor österreichischen Civil-Gerichten, Wien 1838.²³⁾
- *HANTSCHL, Franz; *Anfangsgründe des einfachen und doppelten kaufmännischen Buchhaltens*, Wien 1840.
- *KLEEMAN, C.; Die landwirtschaftliche doppelte Buchhaltung. Eine kritische Prüfung der verschiedenen, bei dieser Rechnungsform befolgten Grundsätze, nebst Mittheilung einer einfachen Methode zur Führung einer genauen landwirtschaftlichen doppelten Buchführung, Sondershausen 1840.²⁰⁾
- *OCHS, A.; *Bilanz-Journal. Neu erfundene Methode, wodurch das Hauptbuch wegfällt, und vermöge welcher bei jedem Posten, der in jenes eingetragen wird, sich die Bilanz, einschliesslich Disconto, Zinsen, Commission und Courtage bis zu jedem beliebigen Tage, mathematisch erwiesen, auf 12 Zeiten, für's ganze Jahr darstellt, nebst einer vollständigen Anleitung zur doppelten und einfachen Buchhaltung, zum Selbstunterricht*, Köln 1840.
- *PUTEANI, Karl Ferdinand, Baron; Einleitung und kurze Belehrung zur Führung der Wirthschafts-Rechnungs-Hauptbücher. Zum Gebrauch für Wirthschaftsbeamte und Güterbesitzer, welch'Letztere sich selbst mit ihrer Wirthschaft befassen. Zweite verbesserte und vermehrte Auflage, Prag 1840.²⁴⁾
- *STÖTZNER, Christian Friedrich; *Buchhaltung für den Handwerks- und Bauersmann oder kurze, gründliche Anleitung, wie der angehende Geschäftsmann in kurzer Zeit und ohne viele Mühe eine genaue Einsicht in den Gang seines Geschäfts erlangen kann, zum Selbstunterricht und zum Gebrauch in höhern Volksschulen, Handwerksschulen, Sonntagschulen etc.*, Schffhausen 1840.
- *ELZE, August Gottlob; *Die einfache kaufmännische Buchhaltung zum Selbstunterrichte*, Leipzig 1841.
- *GROSSNIKLAS, G. E.; *Anleitung zur Buchhaltung, zum Briefschreiben und zu allerlei schriftlichen Aufsätzen aus dem Gewerbs- und Berufsleben, nebst einem Anhang der im Geschäftstyl gebräuchlichsten*

23) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.48.

24) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.42.

Fremdwörter. Für Haus= und Landwirthe, Professionisten, Handlungs= Lehrlinge und Detailhändler, Bern 1841.

- *LANGHENIE, J. C. B.; Die doppelte kaufmännische Buchführung, möglichst reichertert und abgekürzt, mit Berücksichtigung der neuesten Ideen über Buchführung und der darauf Bezug habenden Gesetzgebung verschiedener Länder. Nebst einer Anleitung zur bequemsten Zinsenberechnung. Ein Handbuch für's Comptoir, Hamburg 1841.²⁵⁾
- *PETTER, Franz; *Lehrbuch der kaufmännischen Buchhaltungs=Wissenschaft. Gründliche und leichtfaßliche, auf practischen Erfahrungen beruhende Anleitung, wie die Bücher der Kaufleute, sowohl im Groß= als Kleinhandel und in Fabriken, auf einfache Art und in doppelten Posten zweckmäßig geführt werden können, Mit Schematen und Tabellen*, Wien 1841.
- *BIBANCO, Julius Emanuel; Die kaufmännische Buchhaltung in allen ihren Entstemen, ihren Zweigen und neuesten Formen, Zweite Auflage, Pesth 1842.¹⁹⁾
- *LANZAC, August; Die doppelte und einfache Buchhaltung zum Selbst-Unterrichte für Kaufleute und Fabrikanten, Leipzig 1842.¹⁰⁾
- *ACKERMANN, Georg; *Praktische Buchführung für Maschinenfabriken & Eisengiessereien. Nach doppeltem und amerikanischem System zum Selbstunterricht bearbeitet*, Leipzig 1843.
- *RULAND, Otto; *OTT RULANDS HANDLUNGSBUCH* (Vorwort von Franz Pfeiffer), Stuttgart 1843.
- *SJOEBERG, Carl Gustav; Der Kaufmann und sein Buchführer, oder; die italienische Buchführung im Ihrem Umfange. Ein Lehrbuch für Lehrer und zum Selbstunterrichte, Hamburg 1843.²⁵⁾
- *DITMAR, W.; Das Staatskassen- und Rechnungswesen, Köln 1844.²⁶⁾
- *ODERMANN, Carl Gustav; Praktische Anleitung zur einfachen und doppelten Buchhaltung. Für Handelslehranstalten, sowie für angehende Geschäftsleute. Mit einem Vorworte von August Schiebe, Leipzig 1844.¹⁰⁾
- ***著者は不明**; *Anleitung zur schriftlichen Geschäftsführung für Buchdruckereien*(*Durch Beispiele erläutert*) Eisenach 1844.

25) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.29.

26) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.22.

- *AMMANN, Johann Christian; Verrechnungskunde. Theoretisch und praktisch, Prag 1845.²⁴⁾
- *TOEPLIZ, Jakob; *Die doppelte und einfache Buchführung in ihrer Anwendung auf alle Geschäfts=Vorfälle. Eine Anleitung zur leichten und gründlichen Erlernung derselben. Zunächst für Handelslehrgangsalters seiner zum Gebrauch für angehende Kaufleute, für Handlungsdiener wie für alle Diejenigen, die kürzester Zeit Buchhaltung erlernen wollen. Systematisch bearbeitet und durch Beispiele und Schemas erläutert*, Posen 1845.
- *WEHLE, S.; Der populäre Buchhalter, oder leichtfastzliche Anweisung zur Erlernung der kaufmännischen Buchführung, theoretisch und praktisch zum Selbstunterrichte, Pressburg 1845.²⁷⁾
- ***著者は不明**; *Leitfaden für die Vorträge über landwirtschaftliche Buch= und Rechnungsführung am ökonomischen Institute*, Ungarisch-Altenburg 1845.
- *ROESSNER, Eduard; Erweiterte einfache Buchhaltung theoretisch und praktisch bearbeitet, Leipzig 1846.²⁸⁾
- *SEIPEL, Joseph F.; Practische Anleitung zur Aulage und Führung der landwirthschaftliche Gutsrechnung in Tabellenform, Wien 1846.²³⁾
- *NEUGEBAUER, Joseph; Der vollständigste, gründlichste und fasslicher Unterricht in den Theorien und practischen Geschäftsformen des gesammten cammeralischen Geld- und Material-, dann des merkantilischen Rechnungswesens. Ein unentbehrliches handbuch für die Beflissenen der Berrechnungskunde, so wie zum Selbstunterrichte an gehender Beamten vom administrirenden, verrechnenden und controllirenden Dienstfache, Wien 1847.²³⁾
- *WILLET, W.; *Die landwirtschaftliche Buchhaltung, wie sie am bequemsten und übersichtlichsten eingerichtet werden kann zur Anwendung bei kleinen und bei großen Wirthschaften. Zusammenhängend auf einen Jahrgang berechnet, tabellarisch geordnet und nach kaufmännischer Art in's Hauptbuch übertragen*, Magdeburg 1847.
- ***著者は不明**; Meister Peter's oder des lehrers des Dorfes Belehrungen über die Führung der Buchhaltung für alle Stände. Aus dem „Schweizerischen Volksbriefsteller“ besonders abgedruckt, Bern 1847.²⁷⁾

27) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.20.

28) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.33.

- *AUSPITZ, Josef A.; Die Lehre der kaufmännischen Buchführung theoretisch und praktisch dargestellt. Nebst einem Anhang, enthaltend die wichtigsten kaufmännischen Rechnungsarten: Dezimal- und Interessen-Rechnung, Berechnung der Staats- und Industrie-Vapiere, Wechselreduktionen, Arbitragen k. k., Wien 1848.²³⁾
- *DITSCHNER, Joseph Alois; Neue Wiener-Handels-Schule oder Unterricht in den kaufmännischen Grundwissenschaften: Correspondenz Aufsatzlehre, Rechenkunst, Münz-, Maas- und Gewichtskunde und Buchhaltung, mit eingeschaltetem Wechsel-, Handels- und Seerechte, und der neuen allgemeinen deutschen Wechselordnung, Ein encyclopädisches Comptoir-Handbuch zur Selbstbelehrung für Comtoiristen, Commis, Praktikanten, Lehrlinge und Alle, die sich zu tüchtigen Kaufleuten bilden wollen, Sechse Volumen, Pesth 1849-1855.¹⁹⁾
- *PACKH, Nikolaus Franz; Das Handlungsbilanzbuch als allgemeines, einfaches und gesetzliches Hauptbuch aller Handlungen und Gewerbe, wie colches jeder Kauf- und Geschäftsmann bei seinem Portefeulle zu halten und zu führen hat, Zweite, umgeänderte, verbesserte Auflage, Wien 1849.²³⁾

19世紀後半(1850年~1899年)のドイツに出版される簿記の印刷本

- *OTTO, C. G.; *Die Buchführung für Fabrik-Geschäfte. Ein neues System, einfach in seiner Anwendung, doppelt in seinen Leistungen*, Zweite verbesserte Auflage, Berlin 1850.
- *PICK, David; *Kaufmännische Buchhaltung. Theoretische und praktisch dargestellt*, Pest 1850.
- *ESCHERICH, Philipp, Ritter von; Lehrbuch des allgemeinen und des Staats-Rechnungswesens. Ueber Aufforderung der k. k. obersten Studienbehörde, Erster Band, Wien 1851.²³⁾
- *EXELI, Wenzel; Grundzüge einer zeitgemässen Reform des landwirthschaftlichen Rechnungswesens, Prag 1851.²⁴⁾
- *FARNOS, Karl von; Neues System der landwirthschaftlichen doppelten Buchhaltung. Mit IV Formularen, Wien 1851.²³⁾
- *HARTSTEIN, E.; Anleitung zur landwirthschaftlichen Rechnungsführung, Bonn 1851.²⁷⁾
- *SCHUSTER, Adolph; *Einfache und doppelte BUCHHALTUNG theoretisch und durch dreizehn Handlungsbücher praktisch dargestellt*, Heilbronn

1851.

- *STEINER, Siard; Zur Kenntniss der Staatscassen und ihres Organismus nach den neuesten Bestimmungen im Kaiserthume Österreich, Brunn 1851.¹⁹⁾
- *FROEHLICH, Alois; Handbuch der Staatsrechnungswissenschaft zum gebrauch bei akademischen Vorlesungen und zum Selbststudium, Wien 1852.²⁰⁾
- *GEYER, Johann; *Umriß der italienischen doppelten Buchhaltung, im Rahmen einer einmonatlichen Geschäfts=Partie, theoretisch-praktisch und in Verbindung mit den nothwendigen Briefen dargestellt*, Dritte, vermehrte Ausgabe, Wien 1852.
- *WOHLGEMUTH, Ferdinand; Neueste, leichtfassliche Volks-Buchhaltungs-Lehre für Schulen und zum Selbstgebrauche oder Anleitung für Handelsleute, Krämer, Fabrikanten, Handwerker und Landwirthe, ihre Rechnungen klar, deutlich, allgemein verständlich und regelrecht zu führen, nebst umfassenden Reduktion der alten Schweizermünzen und Reichsgeldes in's neue Schweizergeld; aus amtlichen Quellen geschöpft, Dritte, veränderte Ausgabe, Weinfeld 1852.²⁰⁾
- *HOLLAND, Albert; Die Buchhaltung des kleineren Landwirths. Ein Leitfadens zur Erlernung der landwirtschaftlichen Buchführung für Ackerbauschüler, Verwalter und Gutsbeziker. Für den Unterricht und zur Selbstbelehrung. Mit funfzehn Formularen, Stuttgart 1853.²⁰⁾
- *LOEWINSOHN, Samuel; Die doppelte italienische Buchführung in ihrer Anwendung bei Manufacturwaaren in Verbindung mit Wechsel-, Fonds- und Speditions-Geschäften statt der sonst üblichen neun Bücher auf zwei Geschäftsbücher beschränkt. Theoretischer und praktischer Cursus, Berlin 1853.²⁰⁾
- *SCHLÖSSING, Friedrich Heinrich; *Die deutsche Doppelte Buchhaltung dargestellt durch vollständige Ausarbeitung einer dreimonatlichen Geschäftsperiode nebst der dazu gehörigen Correspondenz. Zum Selbstunterricht für Lehrlinge und Gehülphen und als Leitfadens für selbstständige Kaufleute herausgegeben*, Heidelberg 1853.
- *DITSCHNER, Joseph Alois; *Vollständiges Lehrbuch der einfachen Buchhaltung für Groß- und Kleinhandlungen, bei Commissions- und Speditions-Geschäften, in Fabriken und auf Messen oder Märkten, so wie nach einer neuen controlirenden Methode. Nebst der Anleitung zur*

29) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.54.

Abfassung der Conto-Corrents ohne und mit Binsen, in allen üblichen Formen. Nach rein praktischen Prinzipien bearbeitet und zum Zwecke des Selbstunterrichtes herausgegeben, Pesth 1854.

- *LEHMANN, Max; *DAS BANK- UND PAPIERGESCHÄFT, INSBESONDERE DIE BUCHHALTUNG DESSELBEN NACH EINFACHER UND DOPPELTER METHODE THORETISCH UND PRAKTISCH DARGESTELLT*, Frankfurt am Main 1854.

- *MUEHLBOEK, Rudolf; *Baugeschäfts-Stil. Vollständige Anleitung wie man sich in Bau-Geschäften aller Art benehmen, und die nöthigen schriftlichen Aufsätze, als: Bau-Elaborate von allen vier Bau-fächern verfassen, dann alle Arten Bau-Erhebungs-, Befunds- und Kollaudirungs-Protokolle zu bearbeiten, sowie überhaupt das ganze Bau-Hanzleigeschäft nicht sowol im Kleinen, als auch im Grossen zu überwachen und selbst zu besorgen hat•••*, Leipzig 1854.²⁸⁾

- *OHNSORG, Johs.; *Kaufmännische Schriften*, Hamburg 1854.²⁵⁾

- *SCHROTT, Josef; *Der österreichische Aerial-Rechnungsprozess*, Wien 1854.²³⁾

- *FISCHER, G. Robert; *Das Wissenswerthe des Kaufmanns im Comtoir•••*, Dresden 1855.¹⁸⁾

- *LOEWINSOHN, Samuel; *Praktisches Lehrbuch der einfachen und doppelten italienischen Buchführung, mit ausführlichen Erklärungen der bei Kaufleuten gebräuchlichen Ausdrücke und vorkommenden Rechnungen, als: Proportions-, decimal- und Procent-Rechnung, sowie mit einem Verzeichniss der auf den bedeutendsten Handelsplätzen Europas gebräuchlichen Gold- und Silber-Münzen, mit den nöthigen Erklärungen über Wechsel, Staatspapiere, Pfandbriefe, Papiergeld, Hypothkenwesen u.s.w.•••*, Leipzig 1855.²⁸⁾

- *SCHROTT, Josef; *Versuch der Begründung eines Staatskassensystems vom Standpunkt der Finanzwissenschaft*, Leipzig 1855.²⁸⁾

- *HARTZFELD, W.; *Die verbesserte neue deutsche Buchhaltung in ihrem ganzen Umfange. Zum practischen Gebrauch für Banquiers und Kaufleute, sowie zum Selbstunterricht*, Zweite Ausgabe, Leipzig 1858.²⁸⁾

- *KURZBAUER, Georg; *Leichtfassliche Darstellung der doppelten Buchhaltung zum Gebrauche für Handelsschulen und zum Selbstunterrichte*, Wien 1858.²³⁾

- *ROSENBAUM, M.; *Kein Journal mehr! oder allerneueste Methode zur*

Einrichtung für Prima-Nota, Cassa- und Factura-Buch, für Einkauf und Verkauf, zur doppelten oder einfachen Buchführung mit und ohne Journal, Zweite, reichverbesserte und vielvermehrte Auflage, Berlin 1858.³⁰⁾

- *SCHERBER, Jaob; Die Merkantil-Buchhaltung in der neuen österr. Währung bearbeitet für alle kaufmannischen Stände mit Rücksicht auf Arbeiter-Unterstützungs-Kassen in Fabriken und bei Eisenbahnen, nebst einem Anhang über die Berechnung der öffentl. Fonds, Aktien, Industrie-Papiere und Devisen nach den neuen Coursnotirungen zum Selbststudium leichtlasslich dargestellt, Brünn 1858.¹⁹⁾
- *STUBENRAUCH, Moritz von; Ueber die Bedeutung der kaufmännischen Buchführung nach österreichischem Rechte (Jahres-Bericht der Wiener Handels-Akademie, Am Schlüsse des Studienjahres 1859), Wien 1859.³¹⁾
- *WINTERNITZ, Karl; *Die allgemeine Buchhaltung als Inbegriff aller bekannten Buchungsarten. Zum Gebrauche für Handels-Akademien, Ackerbau-Institute, Gewerbe- und Real-Schulen, so wie zum Selbstunterrichte für Jedermann der irgend ein Geschäft, irgend einen Industriezweig, irgend einen Groß- oder Kleinhandel zu betreiben, irgend einen Besitz oder irgend ein wie immer geartetes Vermögen zu verwalten hat*, Wien 1859.
- *ESCHERICH, Philipp, Ritter von; Lehrbuch des Casse- und Rechnungswesens, mit besonderer Rücklicht auf die Einrichtungen der öffentlichen Verwaltung in Österreich. Ein Leitfaden zu den Verträgen über diesen Lehrgegenstand und zur Vorbereitung auf die hierüber abzulegenden Staatsprüfungen, Zweite umgearbeitete Auflage, Wien 1860.³¹⁾
- *LÖW, Eduard; Theorie des Rechnungswesens und systematische Anleitung zur Buchführung im Staats-, Kommunal- und Privathaushalte, nebst der Geschichte und Litteratur des Rechnungswesens; als Leitfaden zu akademischen Vortragen und zum Selbstunterricht, Berlin 1860.³⁰⁾
- *SCHMIDT, Louis; *Die Buchführung und die damit verbundenen schriftlichen Ausarbeitungen*, Stuttgart 1861.
- ▼
- *SKRIVAN, Antonin; Ein Beitrag zur Lehre der Buchhaltung bei Liquidationen der Gläubiger-Massen für Kaufleute und Juristen. Aus der juridischen böhmischen Zeitschrift „Pravnik“ nebst einem Anhang über die wichtigsten Grundsätze der doppelten Buchhaltung, Prag 1861.³⁴⁾

30) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.18.

31) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.49.

- *KERCK, Emil; Die doppelte Buchführung, Hamburg 1862.²⁵⁾
- *SCHROTT, Josef; Die Staatskassen im Kaiserthume Oesterreich, Prag 1862.²⁴⁾
- *TELSCHOW, Wilhelm; Theorie und Praxis der kaufmännischen Buchführung. Ein Comptoir-Handbuch zum Selbstunterricht für angehende Kaufleute und Geschäftsmänner, wie zum gebrauch für Handels- und Gewerbschulen, Leipzig 1862.²⁸⁾
- *AUGSPURG, G. D.; *Die Grundlage der Doppelten Buchhaltung. Ein Nachtrag zu seiner Kaufmännischen Buchhaltung auf besondere Veranlassung dem Druck übergeben*, Bremen 1863.
- *AUSPITZ, Josef A.; Die angewandte Arithmetik nebst der Buchführung, der Wechsel- und Zollkunde, zum Selbststudium und als Lehrbuch für den dritten Jahrgang der Unterrealschule, Zweite Edition, Wien 1863.³¹⁾
- *FORT, Ludwig; Theoretische und praktische Anweisung zur doppelten Buchhaltung, hauptsächlich für den Grosshandel der Binnenstädte, Vierte rev. Edition by Wilhelm Ortelli, Leipzig 1864.²⁸⁾
- *KROLL, F. G.; *Buchhaltung für Müller. Vollständige theoretische und praktische Anleitung zum Selbstunterricht in der doppelten Buchhaltung in ihrer Anwendung beim Fabrik=Geschäft. Ein Dampf=Mühlen=Etablissement in 4 Haupt= und 8 Hilfsbüchern*, Leipzig 1864.
- *KURZBAUER, Georg; *Lehrbuch der kaufmännischen Buchhaltung*, Zweite, umgearbeitete Auflage, Wien 1864.
- *POHLENZ, Robert; Des Landwirths „Soll und Haben“ beruht auf der Erkenntniss der wirtschaftlichen Gesetze des Betriebes und eines einfachen und correcten Buchführung zur Controlle desselben, Zweite vollständig umgearbeitete Auflage, Breslau 1864.¹⁴⁾
- ▼
- *SKRIVAN, Antonin; Lehrbuch der kaufmännischen einfachen Buchhaltung mit vorangehender Erklärung der Hilfsbücher, Dritte Auflage, Prag 1864.²⁴⁾
- *GOTTSCHALK, C. G.; Die Grundlagen des Rechnungswesens und ihre Anwendung auf industrielle Anstalten, insbesondere auf Bergbau, Hütten- und Fabrik-Betrieb. Mit besonderer Rücksicht auf die verschiedenen Methoden und Systeme der Buchführung für Unternehmer, angehende Betriebs- und Rechnungs-Beamte, sowie insbesondere für Studierende der Bergwissenschaften, Leipzig 1865.²⁸⁾

- *MANNLICHER, Gustav; Leitfaden der Verrechnungskunde von Montanwerken nach dem Systeme der doppelten kaufmännischen Buchhaltung. Gewidmet dem vortrage auf Montan-Lehranstalten und dem Selbststudio für Bergbeamte und Montanwerksbesitzer, Graz 1865.¹¹⁾
- *MEYER, J. Ch.; *Gemeinnütziges Lehrbuch der Buchführung, Wechsellehre, Wechselrechnung, Staatspapiere, Actien, Münzen, nebst einer Münztabelle mit den Gold= und Silbermünzen der wichtigsten Länder und Handelsstädte auf der Erde. Für Gewerbetreibende und Landwirthe, für junge Kaufleute und Lehrer, sowie für den Unterricht auf Schulen*, Hannover 1865.
- *SALOMON, Siegmund; *Siegmund Solomon's Comtoirhandbuch. Eine praktische Unterweisung in der einfachen und doppelt-italienischen Buchführung für das Waaren= und Bankgeschäft, unter Hinweis auf die Bestimmungen des Allgemeinen Deutschen Handelsgesetzbuchs, in der Wechsel- und Concurs-Ordnung, in der Wechsel=Cours=Berechnung aller Börsenplätze und in der kaufmännischen Correspondenz. Für die Bedürfnisse des Comtoirs und zum Gebrauch in Handelslehranstalten*, Berlin 1865.
- *STERN, Emanuel; Die kaufmännische Buchführung und der erste Absatz des Art. 28. des allgemeinen deutschen Handelsgesetzbuches. Vorträge über obigen Gegenstand, gehalten und auf vielfeitiges Verlangen dem Drucke übergeben, Dritte Auflage, Darmstadt 1865.¹⁸⁾
- *STOETZNER, Christoph Friedrich; Buchhaltung für den Handwerks- und Bauersmann zum Selbstunterricht, so wie zum Gebrauch in Volksschulen, Handwerkschulen, Sonntagschulen u.s.w., Dritte Auflage, Schaffhausen 1865.²⁰⁾
- *CZOERNIG, Carl Freiherrn von; Darstellung der Einrichtungen ueber Budget, Staatsrechnung und Controle in Oesterreich, Preussen, Sachsen, Baiern, Württemberg, Baden, Frankreich und Belgien, Wien 1866.³¹⁾
- *SCHICK, Ernst; Theoretisch-praktischen Lehrbuch der einfachen und doppelten Buchhaltung, nebst einer Anleitung zur Ausfertigung der Conto-Corrente. Für Kaufleute und Geschäftsmänner, insbesondere aber für die Zöglinge des Handels, sowie zum Gebrauche bei Vorträgen, Leipzig 1866.²⁸⁾
- *ZELLER; Die Buchführung nach den Anforderungen des Handelsgesetzbuchs und nach dem Bedürfniss eines Geschäftsmanns Gekrönte Preisschrift, Stuttgart 1866.³²⁾
- *KHEIL, Carl Peter; Die Lehre der Buchführung nach einfacher Art, und den

Bestimmungen des Handelsgesetzbuches, Prag 1867.²⁴⁾

- *MUENSCH, J. L.; Übungsaufgaben zur Buchführung für Fortbildungsschuler, Stuttgart 1867.³²⁾
- *STERN, Emanuel; Vollständige Anleitung zur Buchführung für die Gewerbetreibenden und kleinere Fabrikanten, wie sie nach den Bestimmungen des deutschen Handelsgesetzbuches ihre Bücher zu führen haben•••, Darmstadt 1867.¹⁸⁾
- *KLAPKA, Anton; Die landwirthschaftliche doppelte Buchführung auf dem Pachtgute Sassin in Ungarn, Skalitz 1868.²⁰⁾
- *KROLL, F. G.; *Buchhaltung für Müller. Vollständige theoretische und praktische Anleitung zum Selbstunterricht in der doppelten Buchhaltung in ihrer Anwendung beim Fabrik=Geschäft*, Leipzig 1868.
- *LICHTNEGEL, Josef Calasanz; Sistematische darstellung der Grundsätze im neuen österreichischen Civil-, Cassa-, Rechnungs-Controlswesen. Nebst einem Anhang, enthaltend: eine kurze theoretisch-practische Anleitung über die Conto-corrente-Buchführung und eine Zusammenstellung der allgemeinen Vorschriften für die ordnungsmässige Vornahme der Liquidirung, Verbuchung und Centur, mit Rechnungs-Formularien, Wien 1868.³¹⁾
- *ROTH, August; Anleitung zur Buchführung für Vorschuss- und Credit-Vereine. Zu Auftrag der auf dem fünften Verbandstage der „wirthschaftlichen Genossenschaften am Mittelrhein“ gewählten Commission, Wiesbaden 1868.¹⁴⁾
- *SCHMIDT, Louis; Die Buchführung des Landwirths. Leichtfasslich und praktisch Dargestellt für Gutsbesitzer, Pächter und Verwalter, sowie zum Gebrauche in landwirthschaftlichen Fortbildungschulen, Stuttgart 1868.³²⁾
- *BONDY, Leopold B.; *Die Wirthschafts-Buchführung nach doppeltem Buchführungssysteme mit einem Anhang über die Fabrikations-Buchführung*, Prag 1869.
- *ODERMANN, Carl Gustav; *Die Lehre von der Buchhaltung, theoretisch und praktisch dargestellt von August Schiebe, vormaligen Director der öffentlichen Handelslehranstalt zu Leipzig. Zum sechsten Male herausgegeben*, Neunte verbesserte Auflage, Leipzig 1869.
- *OPPERMANN, Gustav; Die doppelte kaufmännische Buchführung insbeson-

32) Cf., Institute of Chartered Accountants in England and Wales; *op. cit.*, p.45.

dere für Consum-Vereine (auch leicht anwendbar auf Produktiv- und Rohstoff-Genossenschaften) nach einer vollständig bewährten, leicht fasslichen Methode des neuen Consum-Vereins, eingetragene Genossenschaft, zu Magdeburg, Berlin 1869.³⁰⁾

*SCHMIDT, Robert; Die Buchführung nach einfacher und doppelter Methode. Practische und leicht fasliche Anleitung zum Selbstunterricht für Kaufleute und Gewerbtreibende, ein Beitrag zur Förderung weiblicher Erwerbsfähigkeit, Posen 1869.¹³⁾

*WERNER, Hugo; Die doppelte landwirtschaftliche Buchführung für mittel- und norddeutsche Landgüter, Berlin 1869.³⁰⁾

* 標題のイタリック体は、原本と照合済。

表1

なお、「19世紀のドイツに出版される簿記の印刷本の目録」については、紙幅の都合から、1869年までしか披露しえないが、1870年からも引き続いて披露することにしたい。